

2023年6月2日

第6期（2023年度）
一般社団法人渋谷未来デザイン
事業計画書

自 令和5年（2023年）4月1日

至 令和6年（2024年）3月31日

1 一般社団法人渋谷未来デザインの設立趣旨

渋谷未来デザイン（以下FDS）は、渋谷に住む人、働く人、学ぶ人、訪れる人など、渋谷に集まる多様な主体、多くの地域の産官学民のステークホルダーと共に世界最前線の実験都市「渋谷区」をつくるため、渋谷に集う多様な人々のアイデアや才能を、領域を越えて収集し、オープンイノベーションにより社会的課題の解決策と可能性をデザインする産官学民連携組織として2018年に設立され、2023年度は6年度目を迎えます。

これまで、未来の「都市」の可能性と、渋谷に関わる人々が実現したい「夢」を叶えるため、その活動を渋谷というフィールドで実証、実装し、世界へ発信することで、社会全体の持続的な発展へつなげていくことを目的として掲げて、様々な取り組みを進めて来しました。

渋谷区基本構想の「ちがいをちからに変える街。渋谷区」の未来像に示された渋谷区の持続的な発展へとつながる7つの分野、A：子育て・教育・生涯学習 B：福祉 C：健康・スポーツ D：防災・安全・環境・エネルギー E：空間とコミュニティのデザイン F：文化・エンタテインメント分野 G：産業振興 のすべてにコミットすることをイメージしながら、渋谷区と連携協力し、企業・市民と共に多様なアプローチで可能性開拓型プロジェクトを構想・推進することで、引き続き渋谷の可能性、未来を踏まえた都市の可能性をデザインしていきます。

2023年度も『Create Culture, Drive Diversity & Social Innovation』をキーワードに、多様な個性・価値観を原動力に、新しいカルチャーの創発とソーシャルイノベーションを起こすことで、都市の可能性を拡張し続けます。

2 令和4年度（2022年度）の状況

コロナ禍の制約があっても、必要な感染対策などを徹底しながら、できることを着実に進めてきた結果、「SIW」や「渋谷5Gエンターテインメントプロジェクト」など継続的に取り組んできた事業を拡充すると同時に、時代を先取りした新しいプロジェクトとして「もしもフェス渋谷」、「こども第三の居場所」、「渋谷スマートドリンクプロジェクト」などをスタートさせることができました。

最終的には118社の会員を迎えることができ、財務面においても年間を通して収入に対する支出のバランスの改善を図った結果、最終決算については、2,419万円の経常増額となりました。

3 2023年度事業計画

新たに迎える令和5年度（2023年度）については、国内外でのコロナウィルス感染の終息宣言や緩和を迎えるにあたり、3年ぶりにイベントやリアルな街での活動も活発になる兆しが見えています。FDSとしても、5年間で蓄積した経験と得意分野をあらためて見直し、組織体制と事業の再編に継続的に取り組むことで、渋谷に集う多様な個性・価値観を原動力に新しいカルチャーの創発とソーシャルイノベーションを起こし、都市の可能性を拡張し続けます。2021年よりイノベーション事業とインキュベーション事業という8つの事業カテゴリで運営を行ってきたものを、ソーシャルイノベーションにつながる事業として5つのカテゴリに集約し、各プロジェクトを強化・運営していきます。

具体的な事業については、ソーシャルイノベーションウィーク事業、創造文化都市事業、プレイグラウンド事業、コミュニティ事業、サステイナブル事業の5つに再編成します。

1つ目の『ソーシャルイノベーションウィーク事業』は、渋谷区と連携しながら6年目となる「SOCIAL INNOVATION WEEK (SIW)」を核としたダイバーシティ&インクルージョンや共創によるソーシャルイノベーションを推進するためのイベント企画・実施、地元や学校連携プロジェクトなどの事業を行い、今年度より年間を通じた活動とグローバル化への進化を目指します。

2つ目の『創造文化都市事業』は、創造文化都市渋谷を実現するための制度設計提案、街全体でクリエイティビティを育む実験ラボを通じてこれまでにないパブリックスペース利活用の実現など、都市の付加価値向上や都市サービスに寄与する事業です。

渋谷区公認バーチャル渋谷を運営する「渋谷5Gエンターテイメント」や渋谷区立宮下公園を軸にリアルとバーチャルを連携させた公共空間のあり方を実験する「パブリックプレイス」はこの事業カテゴリのプロジェクトとして運営していきます。

3つ目の『プレイグラウンド事業』は、渋谷区全体をプレイグラウンドと捉えて渋谷でもっとスポーツやカルチャーの体験をクリエイションし、フィジカルとデジタルで活躍できる場を提供しながら、新たなビジネスモデルの創出と地域活性化も目指していく事業です。

Z世代やα世代の活躍できる場を創造する「Next Generations」や、渋谷らしいスポーツのあり方を追求する「FUTURE SPORTS」がこの事業カテゴリのプロジェクトとして運営していきます。

4つ目の『コミュニティ事業』は、今後の持続可能なまちづくりの礎となる”市民参画”や”企業活力の投入”、”エリアマネジメント”など、多様な主体が連携して地域全体で「街を育てる」コミュニティ創出を目指す事業です。

「ササハタハツまちラボ」、「こども第三の居場所」、「ネウボラ支援」といった主に市民や地元と共創しながら新しい街のあり方を考え実験・実装していくプロジェクトを進めていきます。

5つ目の『サステイナブル事業』は、SDGsの理念に則り、渋谷のさまざまな社会課題解決に向け具体的でサステイナブルなアクションを起こし、シティブランド向上とより良い地域社会の形成を目指す事業です。

地域資源を体現するスーベニアの企画・販売と一部収益の地域還元を目指す「公認スーベニア」、新しい防災・減災の形を提唱していく「もしもプロジェクト」、若い世代と企業が共に当事者意識を持ちサステイナブル都市に向けたアクションを起こしていく「環境アクション」、成人や女性の健康課題への認知拡大と解決への行動を促進する「ウェルネスアクション」といった4つのプロジェクトを推進します。

データドリブンな社会課題解決を目指した最先端テクノロジーの社会実験を進める「渋谷データコンソーシアム」と国や業界団体との連携により国内外のケーススタディを元に普及を促進する「メタバース/Web3推進」の2つのプロジェクトは、事業横断型のプロジェクトとして推進していきます。

2021年度より組織として自走できるようなプロジェクト構築と運営を行なってまいりましたが、2023年度はさらに事業と組織を強化し、100社・団体を超えるパートナーの方々が、主体的に参加でき且つご自身の事業や活動に生かされるような機会を作り続けます。関連のある事業、収益性のバランス、担当者の連携協力体制などを考慮しつつ、時代に応じた形で組織を再編し、渋谷という街での横の連携、調整を図るために、事業全体を統轄する仕組みづくりを進めることで、コロナの収束時期に関わらず、新たに生じる社会課題にも柔軟に対応できる組織を目指します。

各プロジェクト一覧は表1のとおりです。

表1 各プロジェクト一覧

(1) ソーシャルイノベーションウィーク事業
① <u>SOCIAL INNOVATION WEEK (SIW)</u> 2023 年は、11 月 6 日(月)～11 月 12 日(日) に開催します。6 年目を迎える SIW は、「YOU MAKE」をタグラインに掲げ、渋谷区、パートナー企業、サポーターや参加者全てが「つくり手」となっていくことで、多様で多視点なアイデアや価値観が集まり、交流し、形になる場として実施します。メイン会場を渋谷ヒカリエホール1 箇所に移し、その場でさまざまなコンテンツを体験していただけるとともに、参加者が交流していただけるような場も増やします。また、11 月の開催に向けて月 1 でアイデアに触れられる「SIW CONNECT」セッションを追加。年間通して実施することで、よりアイデアの発展や参加者の交流を深めるよう展開していきます。
(2) 創造文化都市事業
② <u>渋谷 5G エンターテインメントプロジェクト</u> 参画企業参加の勉強会や実証実験の企画と実施を目指し、渋谷での文化の成長や拡張、地域貢献を目指します。また、「バーチャル渋谷」のさらなる活性化と実証実験や「バーチャルシティコンソーシアム」での都市連動型メタバース等の継続議論を行います。
③ <u>パブリックプレイス</u> 2022 年度に実証実験を行った内容をもとに絞った 3 つの重点テーマ「教育分野での利活用」「他地域の連携拠点」「リアルとバーチャルの融合」を中心に、引き続き検証を行いながら、公共空間の高度利用の実現を目指します。また、コミュニケーションの場としての機能面での改善についても取り組みます。
(3) プレイグラウンド事業
④ <u>Next Generations</u> 「出会う/伝える/学ぶ/育む」をテーマに、Z 世代や α 世代に向けたストリートスポーツを中心としたリアルなイベントや学びの場所を提供していきます。今年度より新しい活動領域として、渋谷区内の大学を中心とした学生連携プログラム及び渋谷ユナイテッドとの連携を強化していき、より渋谷に根づくスポーツシーン・カルチャーの醸成に注力していきます。
⑤ <u>FUTURE SPORTS</u> 渋谷区全体をプレイグラウンドと捉え活動しており、昨年度改修した代々木公園のバスケットボールコートにおいて通年でイベントを実施し、本年度はバスケットボール以外のスポーツも導入していきプロジェクトを推進していきます。

(4) コミュニティ事業

⑥ ネウボラ事業支援

渋谷区子育てネウボラの周知活動を中心に、会員企業などと連携し、区の子育て支援施策を共同して推進することを目指します。

⑦ 子ども第三の居場所

日本財団が全国に拡げている「子ども第三の居場所」の拠点の一つとして児童青少年センターに「みらいの図書室」を2021年1月に開設。子どもたちが安心して過ごせる場所で様々な体験学習プログラムを展開して、子どもたちの生き抜く力を育むことを目指します。

⑧ ササハタハツまちラボ

今年度は企業活力を緑道に誘致し、産官学民連携のオープンイノベーションをエリア全体で加速させることを目的に企業ラボを設計し、会員企業を募ります。また、情報発信の面では広報計画の再整理を行い、より戦略的な情報発信に努めます。

(5) サステイナブル事業

⑨ 公認スーベニア

「SHIBUKUROプロジェクト」や「YOU MAKE SHIBUYAスーベニア」のプロジェクトは残しつつ、新たに物に帰属しない新しい技術等を活用したプロダクトやサービスの開発を目指し、渋谷区の地域活性に貢献します。

⑩ ウェルネスアクション

渋谷区から世界に「女性のウェルネス思考」を発信し、心と身体の健康を啓発、フェムテックなど、女性の健康やウェルビーイングのための新しい視点や技術を広く周知し、女性が日々直面する女性特有の健康課題への認知拡大・解決のための行動を促進します。本年度は、このプロジェクトに賛同してくれた約100名のサポーターとの活動や、ウェルビーイング×健康の認知を高めるべく、FDS会員企業をより巻き込みながら支援の輪を広げていきます。

⑪ 環境アクション

持続可能なまちづくりに関する最新情報や渋谷に集まる若者たちとの対話やワークショップを通じて、事業者が取り組む最初の脱炭素活動を支援します。またすでに脱炭素技術やサービスを有する事業者を対象に、渋谷区と連携した産官学民ネットワークを構築、渋谷をフィールドとしたサステナブルアクションを検討しシステムの実装を目指します。

⑫ もしもプロジェクト

関東大震災から100年の節目を迎える中、「もしも今、関東大震災が起きたら」をキーワードに、9月2日(土)・3日(日)の2日間にわたり、代々木公園を会場として、防災・減災を誰でも楽しく体験し学べるイベント「TOKYO もしも FES 渋谷 2023」を開催します。

(6) その他横断型プロジェクト

⑬ 渋谷データコンソーシアム

既存プロジェクトを継続しつつ、新たに「スマートプレイス WG」を設立し、建物内や付随する民地、公開空地等のデータ取得や利活用について、検討を進めていきます。また、渋谷スマートシティ推進機構とも連携し、プロジェクトの相互共有や共同プロジェクトについて検討します。さらに、「渋谷区自転車を活用したまちづくり条例」に基づく自転車まちづくり推進地区協議会（恵比寿地区・代官山地区・原宿神宮前地区ほか）に共同研究大学と共に参画し、交通関係データ等を活用したウォークアブルなまちづくりを目指して行きます。

⑭ メタバース/Web3 推進

web3.0 と呼ばれる「次世代インターネット」が大きな注目を集めるなか、仮想空間や拡張現実、ブロックチェーンなど新たなテクノロジーを活用した価値創造、地方創生及び都市の課題解決に向けて、企業や関係団体と連携を図りながら企画や実証実験を行います。